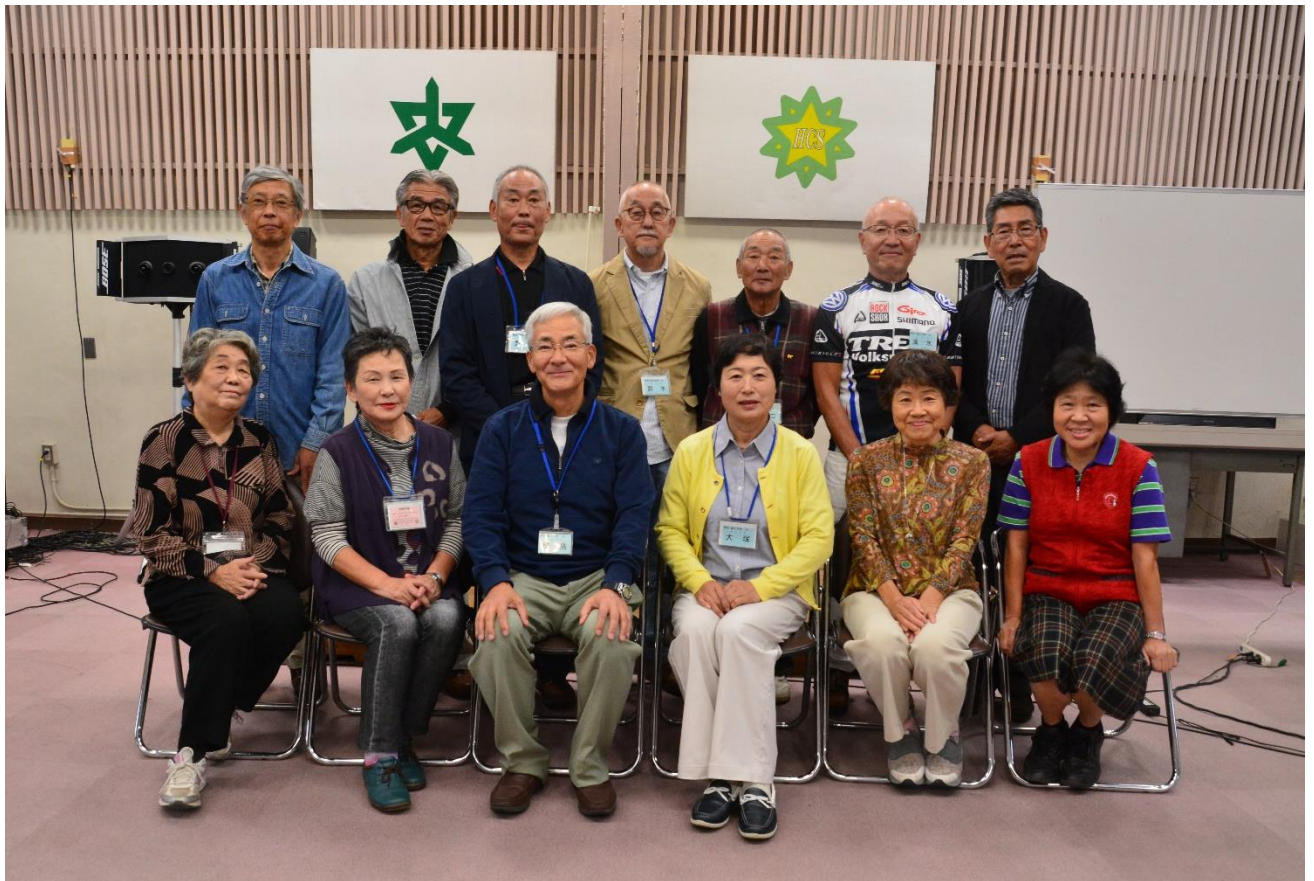


比企の城跡めぐり

東松山市きらめき市民大学

16期歴史・郷土学部 課題研究 A 班



A 班メンバー

二宮 健 萩野谷文雄 野沢 誠 鈴木 中 関口喜明 清水邦夫 大嶋 浩
古川浩子 足立清子 松島信一(リーダー) 大塚弘子(サブリーダー) 清水澄江 杉山悠子

目 次

1. はじめに	5.3 松山城跡
1.1 比企地方の歴史に学ぶ	5.4 高見城跡
1.2 「比企の城跡めぐり」テーマ設定	5.5 腰越城跡
2. 「比企の城跡めぐり」の活動記録	5.6 青山城跡
3. 主な城郭用語	5.7 中城跡
4. 比企の城郭群の歴史背景	5.8 杉山城跡
5. 城跡を訪ねて	5.9 菅谷館跡
5.1 大築城跡	5.10 鉢形城跡
5.2 小倉城跡	6. まとめ (参考資料・協力者様)

1. はじめに

1.1 比企地方の歴史に学ぶ

東松山市がある比企地方(以下、「比企」と言う)は、埼玉県の中央部に位置し、東松山市と滑川、嵐山、小川、ときがわ、吉見、川島、鳩山の7町を含む地域を指す。歴史・郷土学部の講義で、この地方の歴史について学ぶ機会を得た。

比企の歴史は古いが、比企が歴史上最も光彩を放ったのは、鎌倉時代から戦国時代に至る中世であった。平安時代末期から鎌倉時代前期にかけては、上野国の豪族、藤原秀郷の末裔が比企一族を名乗り、比企を領していた。

また、比企一族の比企尼(比企遠宗の夫人)が源頼朝の乳母を務め、20年間にわたって頼朝を支え続けるなど、比企氏が鎌倉幕府に大きく貢献していた史実も学んだ。比企が歴史の表舞台に係わっていたことに驚くとともに、認識を新たにしました。

一方、15～16世紀にかけての戦国時代には、比企は上杉氏や北条氏の戦乱の舞台になっており、東国戦国史に欠かすことのできない数多くの城(城跡)が残っているとのことである。具体的に調べてみると、松山城(吉見町)や小倉城(ときがわ町)、杉山城(嵐山町)、菅谷館(嵐山町)など、遺構の保存状態がよく、国や県の史跡指定を受けている城跡があることも分かった。

1.2 「比企の城跡めぐり」－研究テーマの設定－

現在は「第2次お城ブーム」と言われている。この要因としては、SNSでの城郭・城跡の紹介やゲーム感覚で遊べるスマートフォン「城アプリ」の登場、プロジェクトンマッピングなどの華やかな城イベント、「築城400年ラッシュ」を迎えて紹介される城郭が増えたことなどがあげられる。大阪城や名古屋城、小田原城、「天空の城」として知られる竹田城、江戸城など、全国的に知られる城郭・城跡では毎年のように入場者数の更新が続いている。この「お城ブーム」を背景に、比企地方に数多く残る城跡についても具体的に調べてみてはどうかという意見が、課題研究テーマを検討していく中で提起された。

「城跡」と聞くと、江戸城のように堀や石垣、天守閣跡が残っている姿を想像する

が、比企地方の城跡についてはどのようなイメージなのだろうか。講義では、山城や平山城(丘陵城含む)が多いと学んだ。「山城？平山城？どんな城？どんな所に築かれているの？」と、実物を見てみたいと思ったメンバーが多くいた。

このような経緯から、課題研究のテーマとして「比企の城跡めぐり」を取り上げた。具体的には、比企郡に残る 15 城跡に、大里郡寄居町の鉢形城跡を加えた 16 城跡を城跡めぐりの対象に選んだ(表 1.1)。選定した城跡は広い範囲に分布している(図 1.1)。城跡を訪ねるには時間もかかり骨も折れたが、ウォーキングでの健康づくりも兼ねて、メンバー全員で楽しみながら課題研究活動に取り組んだ。

表 1.1 課題研究で訪ねた城跡

城跡名	形態	所在地	史跡指定	城跡名	形態	所在地	史跡指定
1 大築城	山城	ときがわ町	国	9 腰越城	山城	小川町	県
2 小倉城				10 青山城			
3 谷城	丘陵	滑川町	県	11 中城	平山城		
4 山田城				12 奈良梨陣屋			
5 三門館				13 杉山城	丘陵	嵐山町	国
6 泉福寺館				14 菅谷館			
7 松山城	丘陵	吉見町	国	15 鉢形城	丘陵	寄居町	国
8 高見城	山城	小川町	県				

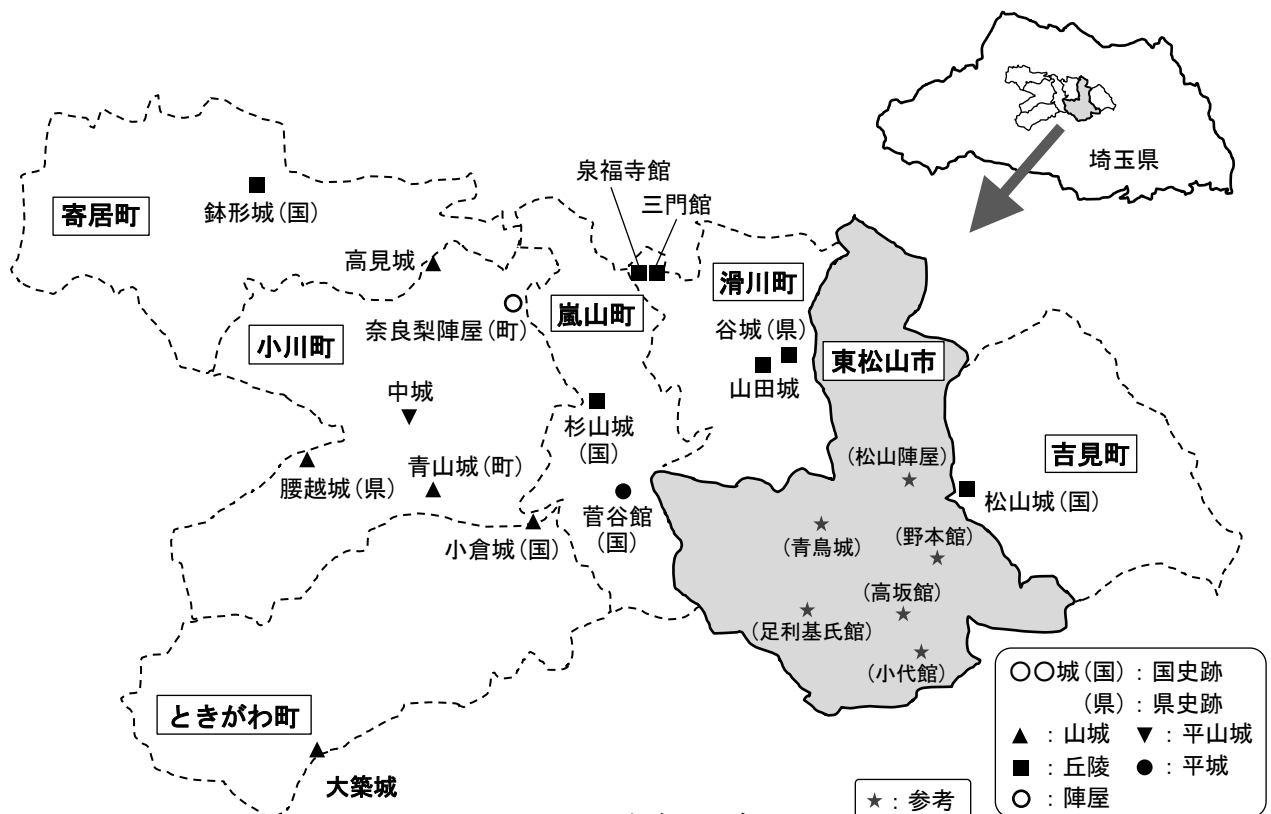


図 1.1 巡った城跡の所在地図

2. 「比企の城跡めぐり」の活動記録

回	月日	実施時間	内 容	場 所
1	1. 11	13:30～15:00	班編成, テーマ検討, 役割決定	学部教室
2	1. 25	13:30～15:00	テーマ検討, 城跡訪問予定検討	講堂
3	2. 17	10:00～14:50	城跡実査	菅谷館, 杉山城
4	3. 19	10:00～15:00	城跡実査	小倉城, 松山城
5	4. 21	10:00～14:50	城跡実査	腰越城, 青山城
6	5. 19	07:00～11:00	上空から城跡撮影	杉山城
7	5. 24	09:30～10:00	研究のまとめ方針検討	講堂
8	5. 31	10:30～15:00	城跡実査	高見城, 中城
9	6. 07	09:30～09:55	研究まとめ, 訪問城跡検討	学部教室
10	6. 14	09:30～09:55	研究まとめ, 訪問城跡検討	学部教室
11	6. 21	10:30～15:30	城跡実査	鉢形城
12	7. 05	11:30～14:30	研究まとめ	講堂
13	7. 12	09:00～15:30	城跡実査	大築城, 慈光寺
14	7. 19	12:00～14:45	研究まとめ	講堂
15	8. 09	13:00～15:30	研究まとめ	講堂
16	8. 30	12:10～12:20	研究まとめ	講堂
17	9. 06	13:30～15:00	レポート試案検討	講堂
18	10. 11	10:30～15:00	レポート添削, 使用画像検討	講堂
19	10. 18	12:00～13:00	レポート添削	講堂
20	10. 25	12:00～13:00	レポート添削	講堂
21	11. 15	10:30～15:00	レポート最終添削, 構成決定	講堂

私たちの城跡めぐりを始めるに当たって、城跡を見て回るにしても、何も基礎知識無しでは単なるハイキングや山登りになってしまうということで、まずは城跡に関連する用語を勉強した。さらに、地域の城跡案内のボランティア活動をしている当課題研究のメンバーに当時の歴史的背景などの教えを受け、城めぐりの助言を受けた。

3. 主な城郭用語

城の種類	山城、丘城、平山城、平城、水城
縄張り	曲輪や堀をどこに配置するかを決める城の設計(グランドプラン)。城を造るため縄を用いて長さを測ったことから呼ばれるようになった。
虎口	(こぐち) 城の出入り口 (正面向きの虎口、喰い違い虎口、馬出をもつ虎口) 「小口」とも書く
堀の種類	空堀、水堀、切堀、堀切、塹堀、障子堀、畝堀、薬研堀、箱堀など
土塁	敵を防ぐために作った土手。たたき土手、芝土手などがある。

石垣	野面積、打込接(はぎ)、切込接(はぎ)、乱積、布積など
曲輪	(くるわ)郭とも書く、城を構成する区画
馬出	(うまだし) 城門の前の堀を渡る木橋や土橋の先端の小さな障地。角馬出、丸馬出など
大手門	大手(表口)に位置する門。追手門(おうてもん)ともいう
搦手門	(からめてもん) 搦手(裏口)に位置する門
根小屋	城外に設けられた守備兵たちの居住区

4. 比企の城郭群の歴史背景

城郭は古代以来、様々な形で数多く築城されて来たが、中世になると本格的な城郭が出現して来る。本来、城郭は非常時の緊急避難用に使用されたものであり、平和な時代には築城の必要性があまり無かった。鎌倉時代の武蔵国は比較的平穏であったため、城郭より、館で十分であった。

南北朝時代になると内乱の余波を受けて戦禍をしばしば蒙るようになった。当時の戦場は小手指ヶ原(所沢市小手指町)、女影原(日高町女影)、苦林野(毛呂山町苦林)のように、主として鎌倉街道沿線が多く、しかも籠城戦でなく野原での合戦であった。従って、この時代には城郭はあまり造られなかった。

応安元年(1368)に起こった「平一揆の乱」に至って初めて城郭的なものが出現して来る。河越館や高坂館などがある。これらの館では、従来の館を改造し、土塁を高く、堀を深くして城郭化している。

武蔵国では「長尾景春の乱」(1477)が勃発して戦国時代の幕開けとなり、戦乱の時代が長期間にわたって続いた。この時代は城郭の必要性が高まり、各地に本格的な城郭が築城されていった。この時代に太田道灌のような築城の大家も出現して、従来の城郭には見られない多郭式の平山城を創出するなど、城郭史上の一大転機をなした。

中世の城郭は山城から出発して、平山城、平城へと発展していった。中世武士は日常、館に居住しており、非常の際には付近の山城へ籠り防戦をした。山城は山の頂上や尾根に築かれ、頂上を削平して周囲には、土塁や空堀を設けたり、山腹に土塁・空堀をめぐらしたりした。15世紀半ばには、館と城郭の両機能を兼ねた平山城が考案されて、丘陵や台地上に造られるようになった。このように各種の城郭が中世に出現し、さらに戦国時代になると後北条氏の支城やさらにその出城が各地に築城され、分国の経営や防御の中心となった。

5. 城跡を訪ねて

この城跡めぐりでは、次の2点を基本にして活動を進めた。

- 「百聞は一見にしかず」で、現地(城跡)を実際に訪ねて肌で雰囲気を感じながら学び、見識を深める。
- 多くの人に城跡めぐりを楽しんでもらえるよう、城の歴史や時代背景だけでなく、城跡の見所や整備状況、アクセス方法、関連施設の状況なども併せて紹介する。

5.1 大築城跡（おおづく）

所在地	埼玉県比企郡ときがわ町大字西平字大築				
築城主	上田能登守朝直	形態	山城	築城	1573年頃
遺構	土塁、堀切、復元大木戸	指定	県史跡	廃城	1592年頃
アクセス	JR八高線「明覚駅」下車「日向根行」バスで「柵平入り口」下車。徒歩約50分。車では、圏央道「坂戸西IC」より約40分。駐車場は泉沢川橋の渡り口に数台のスペース有。				

<歴史>

大築城は、小田原北条氏の家臣、松山城主上田朝直が、関東屈指の大寺院であった天台宗関東別院慈光寺を攻略するに際して、築城された。

慈光寺(図1)は一山七十五坊を有する関東屈指の大寺院である。戦国時代には、多くの僧兵を抱え、近隣城主との抗争に明け暮れていたが、焼き討ちで衰退した。宝物殿には国宝「慈光寺経」が展示されており、坂東三十三観音霊場の第九番札所になっている



図1 慈光寺山門

<城めぐり>

ときがわ町と越生町の間にもそびえる標高466mの大築山に築城。バス停前の大木戸より大築山を望み、案内板を確認してしばらく川（泉沢川）に沿って進むと「大築城跡方面」の標識がある。木橋を渡り(図2)、なだらかな山道を登る。途中より急勾配が続くが、途中何カ所か見晴らしの良い場所があり、遙か慈光寺を見渡せる場所もある。見張り場所としての役割が理解できる。途中には標識などいくつかあり、ハイキングコースとして登山道が整備されている。急な岩場もあるが、(図3)城歩き初心者には頂上を目指しやすと感じた。



図2 泉沢川橋を渡る

他にも登り口は2つある(越生町麦原からの登りと、ときがわ町柵平からの道)。柵平からの登山道は、南の山腹尾根に築かれた郭の中を往来しているため、複数ある空堀・土塁などを目視しながら本郭に到着する。本郭周辺の遺構の状態はよい。



図3 岩場を登る

5.2 小倉城跡

所在地	埼玉県比企郡ときがわ町大字田黒				
築城主	遠山光影	形態	山城	築城	1488年頃
遺構	土塁、空堀、石垣、郭堀切	指定	国史跡	廃城	1590年頃
アクセス	東武東上線、「武蔵嵐山駅」下車。「せせらぎバスセンター行」バスで、「田黒」下車。車では、R254小川町方面、嵐山交差点左折約4キロ。大福寺駐車場利用可。				

<歴史>

長享4年(1488)に、扇谷上杉氏と山内上杉氏により近くの須賀谷原で合戦が行われた。近くの平沢寺に山内上杉方の陣が置かれていたが、この時に小倉城が築かれていたかどうかは定かではない。

<城めぐり>

ときがわ町の槻川が大きく屈曲する場所に張り出した(ときがわ町が東北部の嵐山町に細長く突き出した比高70mほど)丘陵上に築城。かなりの急傾斜を持つ山上に構築されており、天然の要塞としての趣がある。登り口から10分ほどで頂上の城跡に到着。頂上から見る景色が素晴らしい。谷底を流れる槻川の溪谷美、前面の山、大平山ハイキングコース、嵐山溪谷のバーベキュー場、その先の一面のラベンダー畑などを望むことが出来る。遺構の保存状態もよく、当時の城郭の様子が容易にしのばれる。



図1 随所に見られる石垣跡

山全体が岩山のため、築城の際に大量に出た石材を利用して石垣を組んでいる。戦国時代の関東の城としてはまれな石垣(図1)を随所に築いていることが大きな特徴である。この地から産出した石材は、槻川を船により各地に送られ、板碑(図3)として各地で利用された。自然の地形を取り入れ、

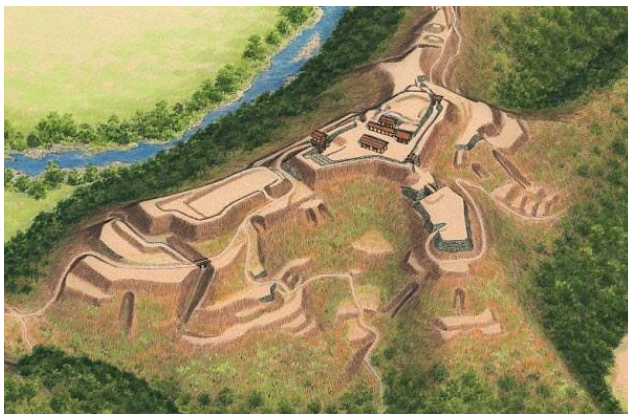


図2 小倉城想像図



図3 板碑

大規模な石積み・腰郭の効果的配置など攻守一体の城。様々な工夫が感じられる。

5.3 松山城跡

所在地	埼玉県比企郡吉見町大字北吉見				
築城主	上田友直	形態	丘陵城	築城	1399年頃
遺構	土塁、空堀、土橋、虎口、井戸	指定	国史跡	廃城	1601年頃
アクセス	東武東上線、「東松山駅」下車、「鴻巣免許センター行」バスで「百穴入口」下車。車では、関越自動車道「東松山IC」より約15分。史跡「百穴」駐車場利用可。				

<歴史>

室町時代から戦国時代にかけては、武蔵国中原の要衝として、関東の諸勢力による激しい争奪戦が展開された。松山城を築城したと考えられる上田氏は当初扇谷上杉氏に属したため、下総国古河に本拠を構える古河公方および山内上杉氏に対する前線拠点として機能した。扇谷上杉氏と山内上杉氏・古河公方の三勢力の間で和睦が成立すると、南方より侵攻してくる北条氏に対する拠点となり、上杉朝定の居城であった。

天文14年河越城奪還の失敗と朝定の死によって扇谷上杉氏が滅亡すると、松山城は北条氏康の手に渡った。のちに上杉方の太田資正、上田朝直が城代になるが、上田朝直が北条氏に寝返り、再び北条方の城になった。永禄4年、上杉謙信が奪取して岩槻城主の太田資正を城代にする。しかし、永禄6年、北条氏康と武田信玄の連合軍の攻撃の前に再び陥落、北条氏家臣団上田氏の居城となり、同氏は松山領と呼ばれる比企地方一帯を支配下に置いた。

<城めぐり>

天然の堀とした市ノ川に囲まれ、北側と西側には断崖絶壁が形成され、天然の要塞化した丘陵城である。比企丘陵の先端に築かれ、北条氏の関東制覇の戦略最前線とし、多くの合戦を余儀なくされた屈指の丘陵城と表される(図1)。

百穴駐車場より岩室観音前を通り、山城の左側を北東に迂回した裏側より登ると、間もなく曲輪四に出る。曲輪構成は西から東に向かって本曲輪(図2)、二ノ曲輪、三ノ曲輪、曲輪四が一直線に並んでいる。本曲輪(東北部には突き出した物見櫓跡)を囲むように二ノ曲輪。二の曲輪の東側を囲むように三ノ曲輪(図3)。それらを守り、取り囲むように配置された、惣曲輪・兵糧倉跡、大小様々な形の腰曲輪、堀(空堀・堅堀)や土塁、馬出しなどの縄張りを目視できる。



図1 松山城鳥瞰図



図2 本曲輪跡

東北自動車道の建設のため行われた砕土により、多くの遺構を失った。現在この場所は武蔵丘短期大学の敷地として使われており、短大の建物とグラウンドになっている。春は市ノ川土手の桜、夏は岩室観音そばで岩タバコの花（ただし、城跡は、夏の間は草が生い茂り縄張りは確認しにくい）、秋は色づく木々や、落ち葉踏みなど併せて楽しむことが出来る。



図3 二の曲輪から三の曲輪

5.4 高見城跡

所在地	埼玉県比企郡小川町大字高見字四津山(四津山神社)				
築城主	石井政綱(有力説)	形態	山城	築城	1180年頃?
遺構	土塁・空堀・塹堀	指定	県史跡	廃城	不明
アクセス	東武東上線「男衾駅」下車、徒歩約45分。車では、関越自動車道「花園IC」より約5分。「四津山神社」入り口付近に駐車可。				

<歴史>

「青木家家譜」によれば、1180年、青山城主・青山山城守氏久の配下の石井九郎右衛門政綱が居住していたといわれている。一方、「新編武蔵風土記稿」では、1488年に没した増田四郎重富が居住したとの記録もある。この付近では、1488年に山内上杉顕定と扇谷上杉定正の合戦があり、上杉顕定軍は敗走した。この時、高見城は山内上杉軍の属城となっていた説が有力だが、この戦いが高見城をめぐる戦いかどうかは定かではない。県の指定史跡での名称は「四津山城」(図1)とされているが、歴史史料に基づき「高見在陣衆」と称す記述があるため、「高見城」と称されている。

<城めぐり>

高見城は独立峰四津山の頂上に築かれた典型的な山城である。北側は荒川流域、南側は市ノ川流域を一望できる要害の地に築かれており、細長い尾根を巧みに利用して土塁、掘切で区切られた本郭と三つの郭で構成される。麓の市ノ川筋には鎌倉街道の上道が通り、戦国時代には鉢形城と松山城の間に位置しており、鎌倉街道を押さえる役目を負っていたと想像出来る。

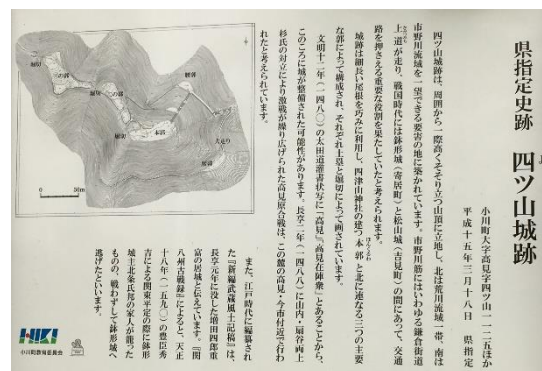


図1 別名四津山城といわれる高見城



図2 高見城四津山神社男坂階段口



図3 四津山神社社殿

城跡へは小川町から寄居方面に向かう県道184号、296号線を通り、要所に建てられた道標を見ながら「四津山神社」を目標に到達できる。神社の参道を行くとトイレがあり、貸し出し用の杖も用意されている。麓から150mほどの間に土塁の犬走りが見られる。土塁に犬走が見られるのは、とても珍しいこと。

麓から10分弱で平らな腰郭に到着する。ここから階段と坂道に分かれており、階段は男坂(図2)。坂道は女坂と呼ばれている。女坂が旧来の大手道と思われる。

旧坂を登ると二の曲輪に出る。ここでは土塁、土橋、堀切を見ることができる。このあたりが一番城跡らしいと感じた。二の郭の西側には三の郭もある。さらに上って「四津山神社社殿」(図3)。この辺りが本郭になる。ここまで、ゆっくり登って20分弱で到着する。本廓からは杉山城辺りがよく見え、展望は絶景である。本郭前には案内板もあり、高見城の由来について知ることができる。

近隣の城跡の中でも、全体的にとってもよく整備された城跡である。

5.5 腰越城跡

所在地	埼玉県比企郡小川町大字腰越字木落根古屋				
築城主	山田伊勢守清義	形態	山城	築城	1180年頃
遺構	土塁・堀切	指定	県史跡	廃城	1590年頃
アクセス	東武東上線、JR八高線「小川町駅」下車、「白石車庫行」バスで「木落し」下車。登山口まで徒歩5分。車では「総合福祉センターパトリアおがわ」駐車場利用可。				

<歴史>

城跡や、墓地に残る五輪の塔の銘により、青木氏に従った、山田伊勢守清義が、宇治川の戦いの先陣に敗れ、籠居するために築かれたとする説が有力だが、築城主は山田政広との説もある。

現在見られる遺構は戦国時代に築かれたものとみるのが妥当なようだ。山田一族は、

戦国期には北条氏の家臣で、松山城主であった上田氏の家臣となっていた。文献「関八州古戦録」では、腰越城は松山城の有力な支城の一つとして山麓の街道を押さえていたとあり、この地域を統治する目的を担っていたものと推測できる。

<城めぐり>

槻川が大きく迂回する比高 100mほどの山を利用した、山城である。城の東側に小川町の「総合福祉センターパトリアおがわ」がある。この駐車場を利用出来るので便利。福祉センターから望める目の前にある山頂が腰越城跡である。民家の間に位置しているが、登り口には腰越城跡入口の標識があり、「腰越城跡榎戸口」(図 2)が復元されていて分かりやすい。

この城跡は、県指定城跡ということで、ハイキングコースとしてもよく整備されている。途中にはかなり急伸な登りもあるが、木組みの階段も整備されており、危険はない。登り口付近には杖となる枝が置いてある。脚力に自信のない人は、杖やストックが必要になることがある。

ゆっくり登っても、入り口から 15 分ほどで根古屋と本郭の分岐に出る。標識に従って本郭(図 3)へ。随所に標識が整備されているため遺構も分かり易くなっている。何ヶ所も有る豎堀は深く大きく掘られているため分かり易い。上からの眺めもとてもよく、お弁当を広げるにもよいところだ。

豎堀によって区切られた各郭は標識により親切に案内されている。階段などが整備されているが、少しきついと感じるかも知れない。

石垣跡が各所に見られるのもこの城跡の特徴である。よく整備された城跡の説明看板には、腰越城、青山城、小倉城、菅谷館、青鳥城から松山城まで、この地域の戦国城のネットワークができていたことなどが記されているので、必見である。

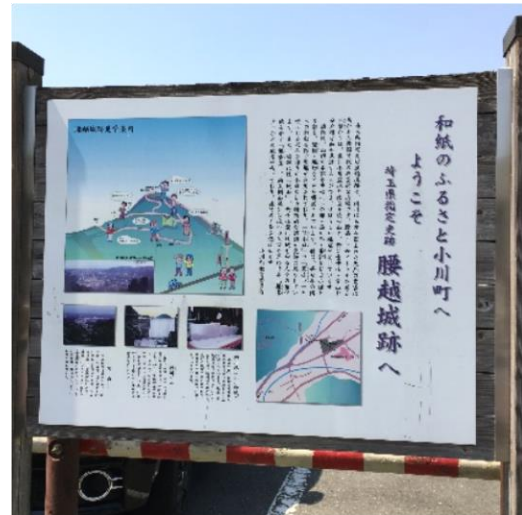


図 1 腰越城案内看板



図 2 腰越城登り口



図 3 腰越城本郭付近の広場

5.6 青山城跡

所在地	埼玉県比企郡小川町大字青山字城山				
築城主	不明（青木氏？）	形態	山城	築城	不明
遺構	土塁・空堀・石積	指定	町史跡	廃城	不明
アクセス	東武東上線、JR 八高線「小川町駅」下車、徒歩約 40 分「仙元山登山口」車では、関越自動車道「嵐山小川 IC」より約 15 分。「仙元山見晴らしの丘公園」駐車場利用可。				

<歴史>

青山城に関する文献はほとんどないため、築城時期、築城主などは不明。「関八州古戦録」には腰越城とともに松山城の支城であったことが推測できる記載がある。さらに技巧的城造りから、北条氏と関連が強く推測されている。別名では「割谷城跡」とも言われている。

<城めぐり>

小川町仙元山「見晴らしの丘公園」駐車場から、仙元山山頂への道（図 1）を進む。登山道へ入ると、山頂と城跡への標識が整備されていて、不安なく城を目指せる。登り始めて 10 分ほどで見晴らしのよい場所に出る。そこは、ハングライダーの飛立ち地になっていたとこのことで、見晴らしも素晴らしい場所である。さらに進んで登山口から 40 分弱で仙元山山頂と青山城の分岐に到着する。



図 1 青山城登り口道路

ここには分かり易い標識（図 2）がある。ここから青山城跡までは 15 分ほどの距離。初めの城跡が三の郭であり、その手前には堀切を見ることが出来る。三の郭の向こう側にも堀切があり、それを乗り越えれば主郭に到着する。主郭は長方形に切り開かれていて結構広い。主郭が二段になっているのがこの特徴である。この段差も途中で折れ曲がった、凝った作りになっている。



図 2 親切な道標



図3 石積を組み込んだ土塁

周りには、低い土塁も見られる。中には石積を組み込んだ土塁(図3)もあり、虎口にあたる場所の補強に積んだものと推察される。この石積に使われる石板は武蔵板碑の原料になったものと同じであるとのこと。主郭と二の郭には土橋とみられる土塁遺構もある。主郭には丁寧な説明案内板がある。城域はそれほど広くはないが、岩盤を切り通した明確な掘割や、珍しい石積なども見られるなど、腰越城や小倉城との類似点を見ることができる。

城跡に至る登山道の途中から仙元山山頂への分岐があり、山頂からの景色もおすすめである。さらに、「仙元山見晴らしの丘公園」はアスレチック遊具や、ローラー滑り台などもあり、こちらは家族連れでも楽しめる。この公園の展望台からも素晴らしい景色を堪能できる。

5.7 中城跡

所在地	埼玉県比企郡小川町大字大塚字中城				
築城主	不明(青木氏?)	形態	平山城	築城	15世紀後半?
遺構	土塁・空堀・櫓跡	指定	町史跡	廃城	不明
アクセス	東武東上線、JR八高線「小川町駅」下車、徒歩約10分「仙覚律師遺跡」車では、関越自動車道「嵐山小川IC」より約10分。町立図書館駐車場利用可。				

<歴史>

築城主、築城年など中城の歴史的背景はほとんど不明である。鎌倉時代には猿尾太郎種直という土豪の館となっていた記述が「日本城郭大系」にあり、室町時代には斎藤六郎衛尉重範が居城していたと伝えられている。遺構の土塁や堀切の形状から戦国時代に築城されたものとみることができる。

<城めぐり>

中城のある丘陵は比高10mほどで、「八幡台」と呼ばれる大地の端に位置する。丘を目指すと城跡への登り口の掲示板がある。少し行くと最初の土塁がすぐ見つかる。そこに現れるテニスコートが本曲輪跡(図1)とのこと。城跡全体は200m四方の小さなことが、少し残念な気がする。



図1 中城本曲輪跡

南西側にある土塁の上には「仙覚律師堂」(図2)が建てられている。「仙覚律師」は鎌倉時代初期の天台宗の学問僧。中世の万葉集の研究に大きな功績を残した。ここ小川町で「万葉集注釈」を完成させたと言われており、この地を埼玉県旧跡「仙覚律師遺跡」と名付けられている。「仙覚律師堂」の建つ辺りは、櫓台のようになっており、そこから高い土塁が北側に伸びていて、土塁に上るための階段が取り付けられている(図3)。虎口跡と思われる。城跡の北側には「陣屋沼」といわれる沼がある、戦国時代からあったのかは不明。



図2 仙覚律師堂

また、「太田道灌状」では「上田上野介在郷の地小河」と記載されているため、上田氏の城であったとも窺える。上田氏は松山城をはじめ近隣の広範囲を治める有力国衆であったので、上田氏の支城であったことも容易に想像できる。



図3 土塁跡

5.8 杉山城跡

所在地	埼玉県比企郡嵐山町大字杉山				
築城主	山内上杉氏または北条氏	形態	丘陵城	築城	不明 (1500年代初め)
遺構	本丸、虎口、横堀、馬出、井戸	指定	国史跡	廃城	1590年頃
アクセス	東武東上線「武蔵嵐山駅」下車、徒歩約50分(路線バスなし)。車では関越自動車道「嵐山小川IC」より「玉ノ岡中南入口」交差点経由、約5分。玉ノ岡中学校体育館前の駐車場が利用可能。玉ノ岡中学校敷地内のトイレも利用可能。				

<歴史>

築城年代は不明。近年の発掘調査によって15世紀末から16世紀前半の土器や陶磁器が出土したことから、長享の大乱(1487~1505)の後、山内上杉氏が扇谷上杉氏に対抗するために造った城である可能性が高い。

また、後北条氏の松山城攻略・保持に必要な鎌倉街道確保の拠点、北から食い込んでくる上杉軍への戦術拠点として、北条氏が築城したとの説もある。

<城めぐり>

鎌倉街道を見下ろす丘陵尾根上に築かれた丘陵城である。本郭が築かれていた頂上付近からの眺めは素晴らしく、市野川を見下ろす景色や鎌倉街道も見渡すことができる。高度な築城技術の粋を集めて築かれた城で戦国期城郭の最高傑作の一つと高い評価を得ている。



図1 杉山城を本曲輪に向かい登る



図2 綺麗に当時の面影を残した土塁・空堀



図3 杉山城鳥観図

登り口は、嵐山町玉ノ岡中学校横の積善寺の上の大手口から登り始め(図1)、直ぐに傾斜の急な切岸、横堀が連続する折れを見ながら南三の郭・南二の郭を進み、見晴らしの良い尾根上の本郭に(登り口から)約30分程度で到着する。本曲輪から日光男体山・高見城跡の景色を堪能した後、北二の郭から下山すると、井戸跡、馬出郭を通過して、やがて登り口の手口に戻る。登り始めてから1時間程で回ることができる。

杉山城は丘陵の最高所に本郭を設け三方に伸びる尾根を空堀で画し、その導入部に横矢を掛けた城郭である。また、曲輪のそれぞれが馬出的な役割を果たしているのも一つの特徴である。小型の城のため堀はさほど深くないが、その組み合わせが絶妙なため、縄張りの面白さが堪能できる。

各郭の枡形や土塁・空堀が綺麗に当時の面影を残しており(図2)、確認が容易である。

毎年数回、地元の人々の大掛りな草刈り、中学校生徒による遊歩道整備のお陰で、城跡内の順路はよく整備されはっきりしているので、道に迷うこともない。高齢者も安心してウォーキング感覚で見学できる(図4)。



図4 よく整備された城跡内

5.9 菅谷館跡

所在地	埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷字城				
築城主	畠山重忠	形態	平城	築城	不明(鎌倉時代)
遺構	曲輪・土塁・空堀・ 虎口	指定	国史跡	廃城	不明
アクセス	東武東上線「武蔵嵐山駅」下車、徒歩約 15 分(路線バスなし)。車では、関越自動車道「嵐山小川 IC」・「東松山 IC」より、国道 254 号線バイパス経由、約 10 分。駐車場あり、トイレあり。				

<歴史>

築城年代は定かではないが、鎌倉時代に畠山重忠によって築かれたと伝えられる。畠山氏は源頼朝に従い、頼朝の鎌倉入りや富士川の戦い、奥州合戦などで先陣を務め重用された。頼朝没後の元久 2 年(1205)、「鎌倉に異変あり」との急報を受け菅谷館を出発した重忠は、鎌倉幕府の実権を握った北条氏によって武蔵国二俣川で大軍に囲まれて討死した。

長享 2 年(1488)には扇谷上杉氏と山内上杉氏によって、近くの須賀谷原で合戦が行われ、この時には菅谷館が築かれていたと考えられる。

菅谷館は、関東において政治的・戦略的に重要な役割を占めた中世城館の遺跡として、1973 年に国の史跡に指定され、2008 年に比企城館跡群菅谷館跡と名称が変更された。その一角に嵐山史跡の博物館もある。

<城めぐり>

菅谷館は槻川と都幾川の急崖の菅谷台地上に築かれた、敷地 13 万 m²(東京ドーム約 3 個分)に及ぶ広大な複郭式の平城である。高台に築かれているため眺望がよく、南方は笛吹峠方面の鎌倉街道を、西方には武蔵嵐山溪谷から小倉城方面を、東方は高坂台地を望むことができる。敷地は広いが平城のため高低差が少なく、1 時間弱で見て回れる。季節によっては自生するヤマユリの群生や多種多様な花や植物を楽しむこともできる。

城巡りは国道 254 号線嵐山バイパス沿い



図1 菅谷館の全体構成



図2 深く大きな土塁と空堀

の駐車場からスタート。直ぐに三ノ郭の搦手門があり、ここを進むと堅固な土塁と空堀、水堀によって防禦されている二ノ郭に到着する。さらに順路に従って進んで行くと、高さ11mにも及ぶ土塁に囲まれた本郭に着く。本郭からの眺望は素晴らしく、北側を除く三方を見渡すことができる。

菅谷館では、多くの土塁・堀・葎(しとみ)土塁、出柵形土塁など、あちこちに敵の侵入を防ぐ工夫がなされている。土塁の遺存状況は良好で(図2)、本郭は単郭式の城館の面影をよくとどめている。中世館跡の遺構例としては稀少な遺跡であり、保存度も極めて良好である。遊歩道がよく整備されて歩き易く、城内には沢山の案内板や説明板が設置されている(図3)ので、道に迷うこともない。嵐山史跡博物館が併設されていて、比企の戦国の歴史なども勉強できるなど、初心者向けの城跡巡りには最適と感じた。



図3 設置された案内板の一つ

5.10 鉢形城跡

所在地	埼玉県大里郡寄居町大字鉢形				
築城主	長尾景春	形態	丘陵城	築城	文明8年(1476年)
遺構	土塁、郭、空堀 石垣、井戸	指定文化財	国史跡	廃城	不明
アクセス	JR八高線、秩父鉄道、東武東上線「寄居駅」下車 徒歩25分。 「和紙の里」行きバスで「鉢形城歴史館前」下車 徒歩5分・ 車では関越自動車道「花園IC」より国道140号バイパスを秩父・ 長瀬方面へ15分。駐車場、トイレあり。				

<歴史>

文明8年(1476)関東管領であった山内上杉氏家臣の長尾景春が築城したと伝えられている。後に、この地域の豪族藤田康邦に入婿した、小田原の北条氏康の四男氏邦が整備拡充し、現在の大きさとなった。

天正18年(1590)の豊臣秀吉による小田原攻めの



図1 鉢形城跡の曲輪配置図

際には、前田利家・上杉景勝等の北国軍に包囲され、激しい攻防戦を展開した。1ヶ月余りにおよぶ籠城の後、北条氏邦は城兵の助命を条件に開城した。

<城めぐり>

荒川と深沢川に挟まれた断崖絶壁の高台(約119mの高さ)に築かれており、天然の要害をなしている。高台からの眺めは素晴らしく、秩父の山々、上州・信州方面をも望むことができる。この地は交通の要衝にあたる。関東において有数の規模(東京ドーム4個分(図1))を誇る平山城である。鉢形城歴史館前の駐車場を出てすぐに深沢川を渡り(図2)、遊歩道を進むと町指定天然記念物の「エドヒガン桜」を見ることができる(図3)。桜の季節には一見の価値がある。



図2 深沢川を渡る

堀と畝、土塁に囲まれた二の曲輪、三の曲輪(図4)を過ぎると、復元された石積土塁の大手門に到着する。ここからスタートから約30分。ここから北方向に進路を変更、やがて眼下に荒川の県指定名勝の玉淀が見えてくる。田山花袋碑を過ぎると本曲輪に到着(図5)。本曲輪からの眺めも素晴らしく、遠くの町をも見通すことができる。さらに進むと笹曲輪に着く。この場所には1/250の鉢形城復元地形模型があり、築城当時の迫力ある城の全貌に圧倒された。歩き出してから約1時間の見学コースである。



図3 町指定の天然記念物「エドヒガン桜」

鉢形城跡は公園として整備されている。発掘調査の成果をもとに戦国時代の築城技術を今に伝える石積みの土塁や池、城門、番小屋などが復元され、往時の雰囲気を感じ



図4 二の曲輪から三の曲輪方向を望む



図5 本曲輪付近の様子

わうことができる。遊歩道が完備していて歩き易く、看板等も整備されている。事前予約しておけば、ガイド(観光ボランティア)の詳しい説明を聞きながら歩くこともできる。鉢形城の歴史をよく理解できるのでお勧めである。

6. まとめ

これまで漠然と考えていた比企地方にある城跡。それを観光名所・魅力ある街作りの起爆剤となればとの思いで、歴史・郷土学部 A 班の課題研究のテーマとして取り上げました。

比企地方に存在する城跡や館跡等を実際に自分達の足を使って、一つ一つ実査活動を行いました。それぞれの城跡の築城時期・築城主・遺構・交通のアクセス等を調べることができ、内容的にもかなりの量を分かり易くまとめることができました。

結果として現在も比企地方の城の跡を色濃く残し、訪れる人々をワクワクさせるような 70 余りの城跡から、代表的な 10 の城跡めぐりのレポートを完成することができました。

1 年たらずの活動でしたが、13 名全員が梅雨時の足場の悪い中や、真夏の酷暑の中で、歴史の中に埋もれている城跡を一つでも皆さんに知ってもらえたらという、班員の熱意と努力の賜物と思います。

今後の課題として、さらに城跡周辺の名所旧跡や、その地の名物を食べさせてくれる店などについても自分達の調査はもちろんのこと、地元の人々や観光協会等から話を聞くなどして、訪れた人々が楽しめ、その場所を再度訪ねたいと思って頂けるような事項を、地元の方々と一体となって広くお知らせできたら良かったと思いました。

今回の課題研究を通してメンバー同士のコミュニケーションがより深まり、地域の皆さんとの触れ合いが多少なりともできたことは、大変有意義だったと思います。

参考にした資料文献。施設。ご協力いただいた方々

埼玉の城 127 城の歴史と縄張： 梅沢 太久夫著

鉢形城歴史館 ボランティアガイド様

菅谷館跡 ボランティアガイド様

比企郡嵐山町発行：「杉山城跡」、「小倉城跡」、「比企の中世」

比企郡吉見町発行：「松山城跡」

埼玉県立嵐山史跡の博物館：「菅谷館跡」[菅谷館跡見て歩きガイド]

鉢形城歴史館：「鉢形城公園・鉢形城歴史館」

戦国の城がいちばんよくわかる本： 西股総生著

日本名城百選： 村田修三著

埼玉県史通史編： 埼玉県立文書館

杉山城のドローン空撮に当たっては、嵐山町文化スポーツ課の許可、ご協力。渡部知己様（ドローン操縦者）に紙面をお借りして、お礼申し上げます。